

会議録（要点記録）

令和3・4年度 堺市南区政策会議 第2回全体会	
開催日時	令和4年11月14日(月) 午後7時00分～
開催場所	南区役所2階201・202会議室
出席委員	<p>安全安心創出・未来共創推進部会 近藤委員（部会長）、岸本委員（職務代理者） 金子委員、福井委員、二橋委員、 鈴木委員、野崎委員、正木委員</p> <p>育ち学び充実・健康長寿推進部会 松久委員（座長の職務代理者・部会長）、大島委員（職務代理者） 小林委員、新野委員、徳委員 中辻委員、山口委員、栢場委員</p> <p>ブランド戦略推進・魅力創造部会 橋爪委員（座長・部会長）、西村委員（職務代理者） 西委員、檜本委員、今中委員、 神田委員、坂本委員、藤原委員</p>
事務局 管理職員	<p>堺市 佐小南区長 南区役所 植松副区長・谷口副区長 上山参事・西村参事・吉田総務課長・ 喜多区政企画室長・仲田自治推進課長・ 牧市民課長・米村保険年金課長・ 吉田生活援護課長・西地域福祉課長・ 音田子育て支援課長・為野南保健センター所次長</p> <p>市長公室 手取政策企画部先進事業担当課長 泉北ニュータウン推進室 北口事業推進担当課長</p>
議題	<p>1. 開会 2. 議題 （1）各部会の議論の到達点及び南区選出市議会議員との意見交換会の内容について （2）各部会での意見を踏まえた南区としての今後の方向性について 3. 閉会</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席図 ・資料1 「南区独自の防災力向上モデル（案）」 ・資料2 「南区独自の防災力向上モデル ひらめき・アイデアのカタログ2022年度版」

	<ul style="list-style-type: none">・資料3 「子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイング (Well-being) 総合プロジェクト (案)」・資料4 「南区ブランド戦略 (案)」・資料5 「南区ブランド戦略 「戦略内容」について」
--	---

審議状況

開会（午後7時00分）

1. 開会

区政企画室長

ただいまから、堺市南区政策会議第2回全体会を開催いたします。

私、本日の司会を務めます、南区役所区政企画室長の喜多と申します、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、南区副区長の谷口よりご挨拶申し上げます。

谷口副区長

開会に当たりまして、ご挨拶及び本日の会議の狙いについて簡潔にご説明申し上げます。

平素より、皆様におかれましては南区の発展のために多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

また、本日はお忙しい中、ご出席賜り、重ねてお礼を申し上げます。

堺市南区政策会議の各部会は、堺市南区基本計画の3つの基本方針に基づき設置されたもので、安全安心創出・未来共創推進部会、育ち学び充実・健康長寿推進部会、ブランド戦略推進・魅力創造部会の3部会にて、昨年度から複数回にわたり委員の皆様に議論を重ねていただいております。

いずれの部会におきましても、地域にお住まいだからこそその視点であったり、防災や教育、子育て、南区のブランド戦略など、各テーマに沿った学術的、専門的な視点から現在の南区の状況に応じた貴重なご意見をたくさんお聞かせいただけました。

また、先日10月31日には、各部会の部会長び職務代理者の6名の皆様と、堺市南区選出市議会議員の皆様との意見交換会を開催いたしました。ここでは、議員からのご質問やご意見に対し、皆様のこれまでのご経験や幅広い見地からのご説明を頂戴するなど、忌憚のない意見交換ができました。

そこで、本日の会議の狙いとしまして、まずは各部会におけるこれまでの議論内容と考察点、そして先日の議員様との意見交換会の内容、最後に今後の方向性について全構成員の皆様と共有を行いたいと思います。

限られた時間ではございますが、最後までどうぞ皆様よろしく願いいたします。

区政企画室長

本会議は、公開としております。会議録を作成するに当たって、正確を期するために議事内容を録音いたします。また、記録のため写真撮影を行いますので、何とぞご了承いただきますようお願いいたします。

なお、本日は大橋構成員がご欠席とのご連絡をいただいております。

それでは、本日の配付資料を確認いたします。

《資料確認》

それでは、以降の進行につきましては、橋爪座長をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2. 議題

橋爪座長

次第に従って進行してまいります。議題、本日は2件ございます。

まず1つ目です。各部会の議論の到達点及び南区選出市議会議員との意見交換会の内容について、基本的な報告事項になろうかと思えます。

各部会長から部会での主な意見のご報告をお願いします。

まず、近藤部会長より安全安心創出・未来共創推進部会のご報告をお願いいたします。

近藤部会長

この部会は昨年度から5回開かれました。さらに御池台校区の地域会館の視察とか上神谷支援学校の視察などもしまして、毎回非常に活発な意見を委員の皆さんからいただけてきました。特にこの防災の領域は、堺市南区においても待ったなしの課題の一つだと思えます。台風・豪雨災害、そして南海トラフ巨大地震などリスクが高まっている。そうした中で、どうやって命を守り合っていくか。こうしたことを、皆さんと議論をしてきました。

到達点としましては、資料1と2ですね。「南区独自の防災力向上モデル」というのを掲げよう。その中心がサブタイトルになっている「“新しい共助”の輪を広げる」ということになります。防災の取組は自助が基本、まず自分の命は自分で守ってほしい。しかし、弱い立場にいる方はなかなかそれをやりきることができない。取りこぼされる、取り残される命があつていいのだろうかということで、防災の力、福祉の力でセーフティネットの網の目をしっかりしていこう、固めていこう、そういうことを議論しました。

まとめとしましては、5つの柱に掲げてございます。そして資料2は、それぞれの柱に関する「ひらめき」「アイデア」をまとめてあります。これらはカタログでして、今後こうした観点から施策に反映して行ってほしい、具現化して行ってほしいという狙いでまとめてございます。

第1の柱、「オール南区で防災意識を高め、備えを確かなものにしていこう」ということですけれども、これはまさに自助の行いを徹底していく。広報の取組をすることでいっぱいキャンペーンをしたり、それから南区では防災の催しは時折行われていますけれども、定期的にそうした取組をセットしていただきたい、そうした意見が出ています。

2つ目の柱、これが冒頭申し上げました防災福祉の考えですね。「誰一人取りこぼさない「防災福祉」を進めよう」。特に避難、もしくは避難所について、細かく議論をしました。最近の災害では震災関連死ということで、せっかく最初の災害から逃れることができたのに、避難先の避難生活で命を落とす人もいます。そうしたことを防ぎたい。でも、福祉避難所は足りません。足りないならば地域で、みんなで知恵を出し合って、そうした場所を拡充していく必要があるだろう。そうしたことから、日常からの福祉の支え合いのネットワークを防災にも活用してほしいといった考え、意見を束ねました。

3つ目の柱、ここは南区独自の柱といってもいいかもしれません。「既存の枠組みを越えた“あたらしい共助”のかたちを確立しよう」。これはどういうことなのか。これまでは自治会単位で、もしくは小学校区単位で防災のことを取り組んでいただくことが通例でした。しかし、例えば自治会によっても体力差があります。自治会に入っていない方も大分出てきました。さらに小学校区、広い場所があつて校区の端から端まで眺めた場合に、小学校区の中だけで頑張ろうというやり方で果たして隅々まで救い合えるだろうか。

そんな疑念の声もありました。これは一つ背伸びしたチャレンジになりますけれども、小学校区を越えて、例えば中学校区などでも防災の取組を試してみてもどうか。そんな意見も出ました。資料2の柱の3についてブレイクダウンしてある項目では、近助と遠助の具現化という言葉が見られます。近くを助ける近助、これは隣近所ですね。そして遠助、遠くを助ける。近所だけで助け合っていると、災害時は共に被災しているかもしれない。けれども、遠いところと助け合えば補える可能性がある。南区の場合には、土砂災害の被害を受けているところを別の地域が支えるなどの広域の連携を考えたほうがよりきめ細かく助け合えるのではないかと。そうした意見が集約されています。また、ほかにも事業所や大学など、そうした機関・組織とも連携すると防災を担う主体が増えるのではないかと。これが「既存の枠組みをこえた“あたらしい共助”のかたち」の提案になります。

4つ目の柱は、防災の人材を育てるということで、未来に向かったスローガンになっています。こうした取組は、南区でも防災士の育成など既に取り組まれていますが、特に将来、未来の担い手、子どもたちに防災のすそ野を広げてほしい。具体的なアイデアとして、子ども防災リーダーの認証制度などを今後検討していけないか、アイデアが出ました。

そして最後、第5の柱は防災に関わる情報をしっかり共有する、共有して平常時から活用していけるようにしてほしいということになります。情報のプラットフォームということですが、スマートシティをめざすここ南区では既に構想されていますが、デジタルな取組だけではご年配の方が取り残されてしまう危険もあるので、ぜひアナログなやり方も含めて情報が共有され活用されるような、そうした取組を進めていただきたい、そうした声が強く出ていました。

最後にまとめますと、防災の取組はどうしてもディフェンシブな後ろ向きな取組に思えてしまいますけれども、そうではなくて前向きに、南区では安全・安心が一つのブランドとなるような形で、オール南区で取り組めるようにしていただきたい。これが安全安心創出・未来共創推進部会の思いの一つの具現化ということになります。

橋爪座長

引き続きまして、松久部会長より、育ち学び充実・健康長寿推進部会のご報告をお願いいたします。

松久部会長

この部会では、計4回の部会での議論と、特別構成員による講演や専門的知見を踏まえ、「子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイング(Well-being)総合プロジェクト(案)」をまとめました。

このプロジェクトの目的は、「誰一人取り残さない、個に寄り添った『最大多様・最大幸福』のサービスを提供し、ひとがいきいきと輝き、幸せで、心身ともに健やかに暮らせる都市(まち)の実現をめざす。」ことです。

そして、このプロジェクトの視点として、「乳幼児期から高齢期の全ての世代を対象とする。」「個に応じた選択肢を提供する。」「自己肯定感醸成のための『安心な居場所と活躍のための出番』を創る。」「世代や属性を越えたニーズや課題を受け止め、必要な事業や機関につなぐ。」「ICT等の先端技術を活用する。」という5つの観点を取り入れて取り組みます。

また、このプロジェクトの内容として、「子育て・教育、健康長寿など区民のウェルビーイング(Well-being)につながる様々なプロジェク

トや事業を展開する。」「区民のウェルビーイング（Well-being）につながるプロジェクトや事業を検証して、世代や属性別に体系化・データベース化し、南区役所内関係機関で共有する。」「広報媒体を活用した事業参加・健診受信に係る勧奨や現行事業の見直し・強化などによって、区民の関心や課題意識を高める。」「区民それぞれのニーズや課題に応じてウェルビーイング（Well-being）の実現をサポートするため、南区役所内関係機関がデータベースから事業・サービスなどをプログラムとして区民に提供する。」ことに取り組みます。

なお、内容欄の3点目、「広報媒体を活用した事業参加・健診受診に係る勧奨や現行事業の見直し・強化などによって、区民の関心や課題意識を高める。」ということについて、市が実施する事業などに対して参加・利用に否定的な方や否定的でなくとも先延ばしにしている方、迷っている方にどのようにアプローチすれば参加や受診を促すことができるかということが、南区の大きな課題の一つである、とのことでしたので、その課題解決に向け南区民へのアプローチ方法についても議論しました。

その議論の結果、健診や赤ちゃん訪問など、必ず利用される機会にプラスアルファの情報を提供してはどうか、高齢者には大きな字の分かりやすい資料提供、電話での対応が必要ではないか。親世代や若者は24時間対応可能なSNSを活用した情報提供や相談体制があれば利用しやすいのではないか。駅やコンビニエンスストアなど多くの人が利用する場所でのQRコードの活用による情報発信をしてはどうか。ということなどをアイデア、ヒントとして提案いたしました。

これらのアイデア、ヒントを様々な取組に生かしていただき、健診の受診率や健康意識の向上、講座等への参加促進につながればうれしく思っております。

橋爪座長

次に、ブランド戦略推進・魅力創造部会の報告でございます。私からご説明をしたいと思っております。

お手元の資料4「南区ブランド戦略（案）」をご覧ください。

私どもの部会では、令和3年度からこれまでに計4回の部会を開催いたしました。南区として打ち出していくべき地域のブランドとは何か、南区ブランドの確立に向けてどのような戦略を展開していくべきかについて、多くのご意見をいただきました。

南区ブランドとは、「『みどり』とともにかなえる豊かな暮らし」そのものであると、公園の広さとか充実した縁が多様にあるということ踏まえまして、「みどり」を大きく打ち出してございます。

その分かりやすい言葉、キーワードといたしまして、「&GREENs さかい・みなみ・くらしのすたいる」という言葉を示させていただいております。このキーコンセプトの打ち出し方、戦略の詳細について「南区ブランド戦略（案）」でまとめるという構成になってございます。その前に、私の理解では様々なものと「&GREENs」とつなげて使うことができるような言葉だにご理解いただければと思います。

あと「&GREENs」だけでは、堺市南区ということになかなか理解いただけないので、平仮名で「さかい・みなみ・くらしのすたいる」を付け足したということになります。この「みどり」あるいは「&GREENs」という言葉の中に、先ほどご説明のありましたほかの2つの部会、安全安心や健康・癒やし等々もこの「みどり」「GREENs」という言葉の中に含ま

れていると考えております。

戦略の目的といたしましては、「あふれるみどりを活用した南区ブランドの確立により、都市魅力を向上させ、若年層をはじめとした人口の流入・定着を促すことで、地域力の強化を図り、未来につながるイノベーティブな南区をめざす。」とあります。

これを実現するための戦略方針といたしまして、2つの柱を用意してございます。1つが「シビックプライドの醸成」、もう一つが「ブランド価値の共創」という言葉になっております。

戦略内容については、「南区ブランド『&GREENs』のストーリー化」と「南区ブランド『&GREENs』の浸透」という2項目を立ててございます。ストーリー化のほうですけれども、その中に、「『豊かな育ち』の実現」、「『豊かな恵み』の活用」、「『豊かなくらし』の共感」という言葉を並べてございます。

ストーリー化とは何ぞやということですが、堺市南区で「みどり」とともにかなえる豊かなくらしを多くの方に共感いただき、流入・定着という行動に移してもらうために、具体的にイメージできるような形でお示ししてまいりたいということで、物語性を豊かに語っていこうということでありま

す。その中の「『豊かな育ち』の実現」では、今後の方向性において、具体的な施策の案を例示しています。自然体験を通じた南区ならではの「豊かな育ち」を実現するというので、体験施設との連携を図るなど、効果的な情報発信や教育機関との連携、現状で田植え体験などいろいろ取り組まれていることをますます高めていこうということでご理解いただければと思います。

次の「『豊かな恵み』の活用」では、農業関係者や大学と連携して農業関係を「&GREENs」としてより効果的に展開してまいりたいと、ニュータウンの中でも泉北レモンの街ストーリーさんのように、レモンの苗木によって地域に植樹されている活動等もございますので、泉北レモン等々を特産品としてアピールするというようなことも例示として書かせていただいております。

「『豊かなくらし』の共感」では、SNSやホームページを通じて効果的にこの考え方を広めていきたいと考えています。「南区において豊かな生活をかなえたい。実現したい。」と多くの方に共感いただけるように、事業を展開してまいりたいということです。具体的に「『豊かなくらし』とは何ぞや」、「南区に行けばどのような暮らしができるのか」ということをイメージしやすい形で、多くの方に届けてまいりたいということでありま

す。次に、「南区ブランド『&GREENs』の浸透」では、取組案として、3つあります。「ロゴマーク『&GREENs』によるイメージの確立」、「南区データサイトによる『みどり』の可視化」、「南区SNS活用による魅力発信」ということを掲げてございます。これも先ほどと同じことを申ししておりますが、堺市南区はみどり豊かなまちであると、その中で豊かなくらしを実現できるんだというイメージを確立し、認知度を高めてまいりたいということでございます。「南区データサイトにおける『みどり』の可視化」に関しましては、従前、南区に関するデータを集約してきたサイト「データの森『みなみ』」をさらに活用してまいりたい、視覚的にPRしていくことを考えているということです。「南区SNS活用による魅力発信」では、Instagram、YouTube、Twitter等を利活用して、アピールしてまいりたいということでございます。

以上、3部会の部会長から報告をいただきました。今までの報告に関しま

して、もしご意見・ご質問等々ありましたら、どなたからでも結構ですので挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

前は「&GREENs」に加える、堺市南区を表す文言がまだ決まらず事務局と私の一任ということで、今日初めて「さかい・みなみ・くらしのすたいる」という文言を見ていただいています。多くの方が緑のあるライフスタイルというものをアピールすべきだということをおっしゃってましたので、「さかい・みなみ・くらしのすたいる」ということで、このような形にさせていただきましたがよろしいでしょうか。

(ブランド戦略推進・魅力創造部会構成員異議なし)

ありがとうございます。部会長一任の件、この場でご確認いただきました。また、後でもし何か確認することなどありましたら、ご意見をお願いいたします。ありがとうございました。

次に、10月31日に開催されました、南区政策会議構成員、我々部会長等々と堺市南区選出市議会議員との意見交換会が行われました。区役所よりご報告をお願いいたします。

区政企画室主幹

先日、10月31日月曜日、ビッグ・アイにおきまして、各部会から部会長及び職務代理者の計6名にご出席いただきまして、南区選出議員の8名の皆様と意見交換を行っていただきました。

まず、各部会長から先ほど皆様もお聞きいただきました、これまでの部会での議論についてご説明いただきました。次に、部会ごとに意見交換を行いました。

まず、安全安心創出・未来共創推進部会においては、南区独自の防災向上モデル(案)の第2の柱のうち、防災福祉という考え方の啓発や防災福祉のリーダーやサポーターの育成について、また第3の柱、自治会間の連携策の拡充や小学校区単位を越えた防災訓練の実施を中心に、意見交換を行いました。

議員からのご意見といたしましては、「要支援者・要配慮者への支援は福祉分野の専門の方が担っており、そこに防災分野が連携していくことが非常に大事」「連合に入っていない単位自治会がある。どうアプローチしていくかが課題」「新しい共助として、地域のつながる力に着目している点や既存の枠組みを越えるということが掲げられている点が良い。」「子ども防災士について、小中学生の方にはいざ事が起きたときに高齢者を助けていただかなければいけないので一考を」といったご意見がありました。

また、「高齢化が進む南区でどういう取組をしていけばよいか。」「避難所の数が物理的に少ないことへの対策・避難の仕方を教えてほしい。」という2点の問いをいただきました。1点目について、「命に関わる問題であるという危機感と故郷に対する愛着の心が重要である。自然災害は避けられない難題である。簡単な解決策はないので時間をじっくりかけ、次の世代を育て取組を持続していただきたい。打ち上げ花火で終わるのではなく継続していくことが大事である。」2点目については、「公的な避難所は基本的に要配慮者のために空けてあげるぐらいに意識を持たないとそもそも足りない。丈夫な家、被害が軽微な方は家でやり過ごしてもらい、弱い立場の人を避難所に、というほうがリアリティがある。コロナ禍において分散避難が求められているので、宿泊施設のみならず車避難のための広い駐車場などと連携協定を結ぶ取組が進んでいる。まずは、弱い立場の人を守り抜きたいという優先順位をつけ、地域ならではの戦略を打ち立てる必要がある。」と、近藤部会

長からご回答がありました。

次に、育ち学び充実・健康長寿推進部会について、子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイング（Well-being）総合プロジェクト（案）のうち、特に広報媒体を活用した勧奨などにより区民の関心や課題意識を高める必要があると考えており、参加・利用に否定的な方や先延ばしにしている方、迷っている方への対応方法を中心に意見交換を行いました。

議員からのご意見としては、「事業や健診・受診の参加に否定的な方へのアプローチについて、ナッジ理論の活用が一つの参考になるのではないか。」「事業サービスの体系化、データベース化については、行動特性を収集・分析することが大事。民間企業とタグをとってやっていかなければならない。」「自己肯定感醸成のための安全な居場所がたくさんあるほうがいい。子ども食堂が子どもだけではなく、多様な世代の人が集まる居場所になっていると聞くので、そういう位置づけにしてもいい。ふだんから顔を合わせてつなげることが、地域で防災などを考えることの基礎になる。」「介護しながら、子育てをするダブルケアという事柄も特徴的なのではないか。健康推進と子育ては両立が必要で課題」といったご意見がありました。

このほか、「自己肯定感醸成のための安心な居場所として、どのような場所が議論に挙がっていたか。」「高齢者のための自己肯定感を上げるための議論はあったか。」といった質問をいただきました。1点目については、「若い親の居場所としては、子どもが属している小学校やこども園が相談場所やコミュニティとなる。また、南区では『みみちゃんひろば』のように子育て広場にお越しになる保護者もいる。虐待の問題などもあるので、そういうところを活用していきたいという意見があった。」2点目について、「人の役に立つということ。地域で役に立って喜んでもらえるという気持ちが理解につながるのではないか。」と、松久部会長からご回答がありました。また、「地域会館での子育ての悩みを聞いたり、いきいきサロンで高齢者の見守りや交流などをしたりしている。見守る方も高齢化しているが、皆さんのお役に立てていると思うことで肯定感を持っていると思う。」と、大島職務代理からご意見がありました。

最後に、ブランド戦略推進・魅力創造部会について、南区ブランド戦略案における南区ブランド「&GREENs」を浸透させるための方策やアイデアを中心に意見交換を行いました。

議員からのご意見としましては、「南区ブランドの浸透を考える前に南区ブランドとは何なのか、何がすばらしいのかをしっかりと確立すべきだ。」「南区に住んで、こういうライフスタイルが実現できるという憧れを持って南区に住んでみたいなと思わせるもの、その一つが『みどり』である。公園も様々な活用ができるようになり、市民が楽しめ、行政には税金が入り、事業者も新たな事業を展開できるという三方よしの形を『みどり』を中心に、一番展開できるのは南区ではないか。買い物もできないし坂道も多い、そういうことのフォローもしてこそそのブランド確立である。ケーブルテレビなどを利用し、パーソナライズされた情報を提供できるとよい。」「ハーベストの丘、ふれあい自然の森にシビックプライド醸成の取組として、遠足や校外学習に行ってもらえるよう、南区の小中学校にバス代だけでも補助すればアピールになるのではないか。」「GREENといえば緑道、メタセコイアである。今あるものを使って、とにかく人に住んでいただくことが課題。少しずつでもよい点を提案しながら、ブランド価値を高めていきたい。」といったご意見がありました。これらのご意見に対して、「区民の方々への情報発

信と南区外への情報発信が共に大切で、このブランド戦略に関わる皆が本気で心から思っているものを発信してこそ伝わるものがある。それを聞いて、南区に引っ越していこうという思いを持つようにしなければいけない。激しい都市間競争の中、単に緑豊かな都市というだけではなく、南区がいいと思われるにはほかとは違う打ち出し方を考えることが大事である。」と橋爪部会長からご意見がありました。

また、「南区はこれまでベッドタウンとして発展してきたが、コロナ禍の影響でテレワークが浸透し、職場に行かない価値観が生まれてきた。コロナ禍で緑道を使えば駅へのアクセスもいいベッドタウンという売り出し方でいいのか」という問いがありました。この問いに対し、「世界の潮流として何分で公的施設にアクセスできるかという都市的な利便性、サービスへのアクセスのしやすさが重要視されている。大阪府では、ターミナルと郊外の新しい形をつくっていかねばならないといった議論をしている。新檜尾公園などすばらしい公園を区民の誇りとし、『故郷はどこか。』といったときに公園の風景が思い浮かび、子どもたちの原風景になればと願っている。」と、橋爪部会長からご回答がありました。また、「ブランドイメージを考えたときに、住みやすいまちであって住んでよかったまちにしていかなければならない。今までのように、人がどんどん入ってくる時代ではなく、若い人が集約的に入ってきてもらえるような施策が必要になる。」と西村委員からご意見がありました。

以上のように、限られた時間ではありましたが、大変有意義な意見交換を行っていただきました。今後の本会議及び南区の取組に生かしてまいりますと考えております。ご報告は以上です。

橋爪座長

ありがとうございました。

短い時間でしたが、かなり本質的な意見交換ができたと感じております。

ただいまの報告に関しまして、ご質問等がありましたら挙手でお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(南区政策会議構成員質問等なし)

報告事項でございますので、ご了解いただいたという形で進めさせていただきますと思います。

それでは、(2)「各部会での意見を踏まえた南区としての今後の方向性について」という議題でございます。では、区役所より説明をお願いいたします。

区政企画室長

令和3年度より、堺市南区基本計画の基本方針を踏まえて設置した堺市南区政策会議では、3つの部会を設置し議論を重ね、構成員の皆様より貴重なご意見をいただきました。その議論の内容につきましては、先ほど各部会長よりご説明いただいたところですが、構成員の皆様からいただきましたご意見、そして先日の南区選出市議会議員との意見交換会でいただきましたご意見を踏まえ、南区では次の3つの視点について来年度、重点的に取り組んでいきたいとの方向性を持っております。

まず、1点目ですが、安全・安心な未来を共創するため南区独自の防災力向上モデルとして、このたび部会の議論の中でご意見をいただいた5つの柱

やアイデアカタログを踏まえ、区民の防災意識を高める取組のさらなる強化、自治会間の連携を強め誰一人取りこぼさないための防災福祉の考え方の啓発、防災人材の育成、防災情報の共有など、南区全体の防災力向上を図っていきたいと考えております。

次に2点目ですが、全ての区民が生き生きと輝き、幸せで心身共に健やかに暮らせるまちを実現するため、子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイング（Well-being）総合プロジェクトとして南区役所内、関係機関で子育て・教育・健康長寿に関する様々な事業やサービス等を横断的にデータベース化し、区民のニーズや課題を踏まえて必要に応じてプログラムとして情報提供する体制を整備し、また堺市南区政策会議でのアイデア・ヒントを生かし、区民へのアプローチを工夫・強化して区民の関心や課題意識を高め、事業参加やサービス利用、健診受診率の向上を促していきたいと考えております。これらの取組により、南区民のウェルビーイングの実現につなげてまいります。

続いて3点目ですが、若年層をはじめとした人口の流入・定着を促し、未来につながるイノベーティブな南区をめざすため、あふれる緑を活用した南区ブランド「&GREENs」の確立に取り組み、都市魅力、特に定住・居住魅力の向上を図っていきたいと考えております。

南区では、ブランド戦略推進・魅力創造部会でご議論いただきました南区ブランド「&GREENs」を進めるに当たって、先ほど部会長から説明もありましたが「グリーン」、この「みどり」をイメージとして安全・安心・健康・癒やし・自然・環境などを包含して考えており、他の2部会でご議論いただきました「南区独自の防災力向上モデル」による安全・安心や、子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイング（Well-being）総合プロジェクトによる子育て・教育・健康なども南区ブランドとして考えており、プロモーションを図っていくこととしております。

各部会のご意見を踏まえた取組を着実に推進していくことで、南区の都市魅力を向上させ、若年層をはじめとした人口の流入・定着を促し、地域力の強化を図り、そして安全・安心なまちをみんなで築き、健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせるよう、南区民一人一人のウェルビーイングの実現をめざしていきたいと考えております。加えて、この「&GREENs、みどり豊かなまちである。」という点に基盤を置きながら、堺市南区にふさわしい新たなウェルビーイングを考えていきたいと思っております。

現時点での方向性という形でお伝えさせていただきましたが、もう少し具体的な取組の内容や長期的な取組の方向性につきましては、1月下旬から2月上旬に開催を予定しております第3回全体会でご報告したいと考えております。

続きまして、南区ブランドのプロモーションについてですが、南区ブランド「&GREENs」のイメージの確立に向け、まずは「&GREENs」のロゴ化を図っていきたいと考えております。今後、広くこのロゴを活用していくため、「&GREENs」の商標登録の出願を行うこととしております。ただ、商標登録に当たっては特許庁の審査があり、補正を求められることもあると聞いております。補正等を行うなどの対応を取らざるを得ない場合の対応につきましては、橋爪座長に一任いただくということでご了承いただければと考えておりますが、いかがでしょうか。皆様にお諮りいただきたく存じます。

加えて、このロゴの今後の活用方法につきましては、南区役所や南区をフィールドとした堺市の取組だけではなく、一定の基準を満たす場合は企業・大

学・地域等の取組についてもロゴの使用を許可するなど、ロゴマークの展開も検討してはどうかと考えておりますが、そのあたりも含め効果的な活用方法につきまして、ご意見をお願いしたく存じます。どうぞよろしく願いいたします。

橋爪座長

先ほど説明の中にありましたように、南区ブランド「&GREENs」の商標登録をしてみたいと思っておりますが、特許庁より補正等があった場合には私と南区役所のほうで調整させていただくということで、ご一任いただけますでしょうか。

(南区政策会議構成員異議なし)

橋爪座長

では、ご異議がないということですので、そのように進めさせていただきます。

次に、南区より今説明のありました中で、ポイントといたしまして大きく3点あったかと思っておりますので、ご意見があればと思います。

1つ目は、取組の方向性について、先ほどの説明でよいのか。2つ目は、南区にふさわしい南区民のウェルビーイングの実現について。そして3つ目が、南区ブランド「&GREENs」の今後の活用についてということになるかと思っております。ブランドに関しましては、ロゴを作成した上でいろいろな方々に許可させていただきながら、ロゴマークを広く使っていただきたい。企業・大学・地域・市民の皆様の活動にもこのロゴを使っていただけるような形で進めていきたいと思っておりますが、何か活用の仕方等でもご意見があればということをございます。どの観点からでも結構ですので、全般にご意見がありましたらお願いいたします。

中辻委員

世俗的な質問をさせてもらいますけれども、南区であまりお金がないというような話を聞いているんですけども、このロゴマークの商標登録に当たりまして、どのぐらいの費用がかかるのかということと、そしてその期間がどのぐらいになるのかということと、あと、そのロゴマークを使えるというか使う時期はいつ頃なのかということと、大体の目安で結構なんですけれどもお教え願えますでしょうか。

区政企画室長

区政企画室からお答えさせていただきます。

まず、費用なんですけれども、以前に南区のイメージキャラクター「みみちゃん」の商標登録をしたことがありまして、そのときの実績から申し上げますと大体七、八十万というところだったかと記憶しております。

そして期間ですけれども、弁理士の先生にご相談した中では、大体半年で商標登録の結果が出るというふうにお伺いしております。ただ、先ほどご説明させていただきましたけれども、特許庁から補正の指示が出るということも十分考えられますので、それによりましては若干その期間というのは変わってくるというふうに思っております。

そして使える時期については、やはりその商標登録が登録されて認められてからになりますので、今申し上げたように半年あるいはそれ以降、補正の

関係がありますので、その結果が出てからということになってくるかと思えます。また、その結果が出た上で、ロゴ化を図っていきたいと思っております。

橋爪座長

よろしいでしょうか。
ほか、お願いします。

檜本委員

ロゴマーク「&GREENs」が、どんどんどんどん世に出ていくのを非常に楽しみにしているんですが、私のような年寄りからしますと、ちょっと地域のことを考えたいと思うわけです。先月、24日、泉北ウォーキングの催しに96の方が来ていただきまして、牛石古墳から、先ほど橋爪座長がおっしゃった新檜尾公園のメタセコイアなんかを見て光明池で解散しました。古代では葛城氏あるいは当時の権力者に成り上がりつつあった藤原不比等によって賀茂氏が徹底的にいじめられて、みんな北へ北へ、山城のほうへ逃げたりするんだけど、しかし現地にとどまって反権力みたいな形で頑張った役小角（えんのおづぬ）という男がいて、そのゆかりのものがこの区役所からその向こうに見えている、あのお堂です。あれを行者堂というんですが、反権力の象徴としてニュータウンの真ん中に、区役所から真西に見えるんです。そんな話をいたしまして、僕はかっこよくしゃべったつもりだったのですが、そのときに桃山台と赤坂台の方からご質問がありました。ある地域は昔氾濫で困ったので、地域の人たちが「流れの神様」を置いていた。ニュータウンができたときにそこに流れの神様をもう一度復活させてもらったが、40年経ったつい最近、その流れの神様は、役所によって壊されてしまった。役所はこういう昔の怖い氾濫地域の記念碑的なものを消していつているのに、「檜本さん、あんたかっこよく反権力どうのこうのとよく言えますね」と言われたんですね。皆さん方はよくご存じやと思うんですが、昔そういう氾濫があった場所に今ニュータウンの建物が建ったり埋め立てたりしている。そしてもしかしたら今も、地形的に見たら大雨で氾濫する可能性のある地域の真ただ中にある土地が売却されてまた1軒、家が建とうとしているんです。こういうことを見過ごして知らんふりはできないなと思って。ここに参加されている皆さん、かっこいい言葉も大事です。しかし、同時に具体的に、本当に安全・安心ということを守るには、そういう昔の人が困った地域とかそういう危険を示した記念碑などを消していくということに対して疑問を持って、できたら調べていただきたい。別に復活しなくてもいいけども、役所としては、いや、役所としてというよりもここに集まっている私どもとしては、そこは、本当は危険であるということをお教えあげたほうがいいのか。僕らはかっこいい言葉のもとに会議をやっているものですから、知らんふりをするほうがいいのでしょうか。皆さんにご質問したいと思えます。

橋爪座長

皆さんにご質問ということなのでご意見があれば、ほかにもご意見がありましたらお願いいたします。

近藤委員

今の檜本委員の意見を聞いて、とても大切なコメントをいただいているなと思いました。地域の歴史というのは、やっぱり大事にしたほうがいいと思うんですね。それはブランドのみならず、安全・安心とか暮らしというものを守っていくために大切に何度も見つけ直したほうがいいと私も思います。

ですので、例えば「&GREENs」というブランドが今提起されていて、私、情報学が専門なのでプロモーションというのも研究しているんですけども、内部広報と外部広報というのは両面で進めないといけないんです。外部にPRするときに「&GREENs」って何かかっこいいなという感じもするので、これから響いていく、広がっていく可能性があると思うんですけども、内部広報をやらないと、南区の皆さんが、ああそうだ、やっぱり自分たちは「GREENs」なんだなと思えるようにしていかないと、やがて廃れてしまう可能性がある。そういうことを思い起こさせてくれるコメントだったと思います。

南区にとってのアイデンティティというか大事にしたいこと、歴史、それが「GREENs」の名の下でどんなふうに展開したらいいのかというような。例えば今の檜本委員の意見も踏まえた、意見を討論するような場をつくるとか、南区の内側からみんなで何を大事にしないといけないのか。みどり、みどりと言うけど、それは何のためのものなのかというのを、もう一度意味づけしていく必要があるのかなと思いました。

加えて言うと、内部広報というのは安全安心の部会で言っている情報共有はまさに内部広報のほうのほうで大事で、南区民同士がまず防災の情報を共有しないと始まらないという意見なんですね。ウェルビーイングにおける受診率、健診率の向上というのも、基本的にはまず内部広報の話なので、外にばかり目を向けていると南区民の気持ちがついて来なくなるといけない。恐らくそこを両面でやっているととてもいいブランド戦略になるんじゃないかなと思います。

橋爪座長

区民に加えて、よりインナー向きには区役所の職員の皆さん、あるいは、ひいては市役所の皆さんが南区の「&GREENs」というのをよく理解いただけて展開していただくということに尽きる、それも大事だというふうに思っております。

ほか、いかがでしょうか。全般にどの観点からでも結構ですが。

岸本委員

この3つの部会において、皆さん方が協議をされた内容、これらを踏まえて来年度に対策とかを考えて具体案を出すということを区役所がおっしゃってましたけども、それらをどういう形で出してはるのか、それを浸透させるにはどういうふうにするのかというふうに、区役所のほうで考えてもらえると思うんですけど、それを実行するのは我々住民だと思うんです。いかに住民に理解できるような内容の策を出していただけるか。この3つとも共通しているSNSの発信とかいうのもありますけれども、それだけでいいのかどうか。そういう環境が全部整っているのかどうか。避難所もそうです。全員が入れない避難所でどういうふうな形で救済するのとか、いろんな問題があると思います。それら全て具体案を出していただけるのかどうか、それをお聞きしたいなと。それを来年度から実施と言うて、すぐにできるんですかというふうに思っているんですけど、その辺はどうでしょうか。

橋爪座長

1月下旬または2月上旬開催予定の全体会の中で具体的にもう一度確認いただければと思います。

区政企画室長

今、座長のほうからお話がありましたように、お示しさせていただいているところにつきましてはあくまでも方向性というところで、これから予算要求等々始まってくるところもございますので、今時点ではあくまでも方向性ということでお示しさせていただきました。

今後、1月下旬あるいは2月上旬そのあたりに、もう少し具体的なおところをお示しできるのかなというふうに思っております。もちろん、ご意見をいただきましたところをすぐに全部ができるということはなかなか難しいところもございます。短期的にできるものあるいは長期的になるものというところはございますけれども、そのあたりも含めてお示しさせていただければと思います。

谷口副区長

副区長の谷口です。

1点、補足させていただきます。今も説明ありましたように、当然やっていくものの中には短期的なもの、長期的なものというのは確かにあると思っております。そして、短期的なものというのは具体的に今からもしくは来年度からというところで予算の話も少し出ました。南区としましては、最終的に予算は市の全体で予算規模の中で決まっていくものですので、まずは私たち南区の中で、予算要求の基本的な考え方に基づいて今、予算要求しているところがございます、一定その予算の方向性が見えるのは年明けになるかというふうに思っております。その辺も含めましてまた報告をさせていただければというふうに思います。

岸本委員

ただ、予算の関係でつく・つかないによって、いろんなものが削除される。お金がないからしないでは困るんです。ない中でどういうふうにするかを具体的に出してもら。これは住民みんなが理解しながら分かりやすく、我々も説明がしやすいという形の方向性を出してほしいなと思っておりますので、よろしく願います。

谷口副区長

確かに、予算がつかないからできないという観点は、今の段階では何とも申し上げられないんですが、ただ1点、予算がなくてもできるものもあると私たちは思っております。

なので、必ずこれは基本計画に基づく政策会議の部会でいただいた議論を基に私たちは真剣に進めようとしておりますので、何とか予算のないものも含めて取り組んでまいりたいと思っております。

また、1月にお示しさせていただきたいと思っております。よろしく願います。

橋爪座長

では、全般にほかの観点からでも結構ですので、願います。

小林委員

新しい事業をするということは、恐らく予算が増えていくということだと思があるので、これに取り組むために多分、南区の区役所としても基本の業務の部分の効率化みたいなことは必須なのかなと思うので、ここは南区の基本計画のことをお話する場所だとは思いますが、でも区役所の予算としては恐らく基幹業務も含まれていると思うので、その計画を立てるときに、できたら既存の事業の部分もどれだけ効率化できるかということも合わせて考えていただきたいなと思います。

橋爪座長

ほかに、ご意見、何かありますか。

南区長

南区長の佐小です。ご意見ありがとうございます。

まさにおっしゃるとおりで、先ほど副区長の谷口からございましたけれども、令和5年度の予算要求をするに当たりまして、基本的な考え方というのを持っております。まだ、それは案でございますが、令和5年度の基本的な考え方というのは、部会に基づいたご意見を尊重していくというようなところの部分を中心に基本的な柱に据えて考えておるところです。

それに加えて、仰せのとおりで、当然のことながら予算には限りがございますので、見直していかないといけないものもございます。そのあたりの部分をいかにして効率化するか、行政の効率化も含めまして、その辺のところのやりくりを今まさに検討しているところでございます。その辺も含めまして今後、我々としましては、こういうようなことをしていきたいというようなところで皆様にお示しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

西委員

私はブランド戦略推進・魅力創造部会で話を進めてきまして、3本柱ということで、安全・安心、子育て・教育、健康ウェルビーイングですね、3つ目がブランドということで。結構ブランドというと泉北の名所とか、こんないいところがあるよとかそういうことに話が行きがちなんですけども、今日は、ほかの部会でこんなことを話されていると聞いて、十分、安全・安心の取組にしても子育て・教育についても、それこそが一番のブランドになり得ることで、そこをブランドにしていきたいなというふうに感じました。

橋爪座長

ほか、ご意見ございますでしょうか。

近藤委員

まず今、西委員に同感でして、それぞれの取組がオリジナルになるということか、オンリーワンになっていけるといいなということで南区独自の防災力モデル、「独自の」という3文字を入れるのを随分議論したぐらいですので頑張れるといいなと思います。この「&GREENs」って本当にいいなと私は思っていて、商標を取ったほうが得なのか損なのかちょっと私は分からないですけども、同じ志の自治体とかこのロゴを共有するとか、かなり広い

戦略も編めそうな気がするんです。そういうフィアレスなシティもいっぱいあるような気もするので、これ商標登録に事務手続のお金がかかってキャラクターデザインとかついたらまたデザイン代もかかってとか、どれぐらいのお金を今積んでいるのか分かりませんが、なんかやっぱりそういうのにお金を使ってほしいと区民の皆さんが思っているのかは、私はよく分からなくて、見通しを持っておいたほうが、説得力があるんじゃないかなと個人的に思いました。

橋爪座長

商標に関しましては、取らないとほかの民間企業が、造園とか園芸の会社とかが取った場合に使いなくなる可能性があるので、まずこれは押さえておかないと後発のところ、ほかのところが我々に対して「使うな。」ということにならないよう、まず商標を取ろうということになったと私は思っております。

中辻委員

私、今日聞いてブランド戦略の「&GREENs」という言葉、ごっついなと思いました。私ども民間のこども園では、いろんなことで「みどり」というのを1つの南区のイメージとして使っており、今回この「&GREENs」というのは本当にいいと思います。これができる、各施設と各区民がこれをつける、バッチになるかどうか分かりませんが、やることによって、意識は高まって行って、これは一体何なのかということで、この3つの部会の意味が説明されていたら本当にいいと思います。私は今回、商標化は必ずやってほしいなと思っておりますので、もしお金が足りないのであればみんなで募金しようかなと思うぐらいですので、必ずこれ実現してください。

橋爪座長

「GREENs」の「s」、複数であり小さい「s」がついて多様であると、いろんなGREENの展開があるということはこの「s」に込めておるかと思っております。

では、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

およそご意見をいただいたということで、本日の会議は以上とさせていただきます。では、進行を区役所にお返しをいたします。

5. 閉会

区政企画室長

ありがとうございました。

では、閉会に当たりまして、南区長の佐小よりご挨拶申し上げます。

南区長

閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、何かとご多用中のところ、本日の堺市南区政策会議全体会にご出席賜り、また多くの貴重なご意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。

本日はまず、それぞれの部会における「南区独自の防災力向上モデル(案)」、そして「子育て・教育・健康長寿などにおける南区ウェルビーイ

ング（Well-being）総合プロジェクト（案）」、そして「南区ブランド戦略（案）」につきまして、ご出席の全ての委員の皆様で共有させていただきました。あわせまして、区としての今後の方向性のあらましにつきましてお示しさせていただいたところでございます。

今後の予定でございますが、現在のところですが、来年1月下旬から2月上旬をめどとしまして、第3回の全体会を開催できればと考えております。

第3回全体会では、令和3年度より2箇年にわたりご審議いただきました本会議の総括ということになります。皆様の貴重なご意見を踏まえまして、今後の関連施策、事業の方向性を具体的にお示しさせていただきたいと考えております。そして、第3回が最後になりますので、できましたら委員の皆様にお一人お一人のご意見を頂戴させていただければ大変ありがたいというふうに思っております。

それでは、本日の堺市南区政策会議第2回全体会は閉会とさせていただきます。改めまして、本日は誠に皆様ありがとうございました。

区政企画室長

ありがとうございました。

閉会（午後8時10分）